

コンサルタント系ファシリ、NPO系プロファシリ、行政職員ファシリ、市民ファシリ：4つのファシリテーターの違い

※友人の青木将幸さんが、2018/12/17に作成したものを一部引用し、2023/2/25開催のきたのわ全道フォーラムに向けて、東田が作成いたしました。  
 ※2023年3月27日N-CAN本間&飯野、東田、職員（講座受講者）追記

	まちづくりコンサルタント系 ファシリテーター	NPO系プロ・ファシリテーター	行政職員ファシリテーター	市民ファシリテーター
参加者から見た位置づけ	よそのの、お金で雇われた人が来たと考え、敬遠する人も居る。	なんか知らないすごい人と思われやすい。遠い人。	役場の人。役場職員がまた何かしようとしていると思われがち	自分もいち住民なので、よく土地のことがわかる
依頼者から見た位置づけ	お金で依頼した専門家、業務なので自分たちの意向に沿うように、きちんとやってほしい。依頼者の望む合意形成をする。	本気で中立なので、どちらに転ぶか？分からない場合も多い。	主催者本人だったり、主催者の立場に近い人。クライアントが行政でない場合はただの一般町民	本気で中立になりにくい場合もあるかも？ご自身の立ち位置、職業、考えなどが根底にある。
中立性	何にも知らないヨソモノなので、中立性を保ちやすいが、依頼者の意図に沿う結果を出すことがプロと考えている場合が多いので、依頼者の意図によって変わる	何にも知らないヨソモノなので、中立性を保ちやすい。2者選択ではなく、第3の道、第4の道が出る時もある。	中立性を保つのは難しい。（主催者側に偏ってしまう場合もあれば、逆に町民側に偏ってしまう場合もある。）	自分もいち住民なので、中立性を保つのは難しいテーマもある
住民からみたら	素性を、市民が理解できるようにはっきりと伝えられない場合が多いので、いったい誰？いったい何？と思われやすい。（きちんと委託事業者だと言わないとダメだよ）	よそのの、知らないふりができる	役場職員はどの部署にいようと一括り。「役場職員」というフィルターがあり、日ごろの不満や要望をぶつけてしまいやすい。	自分たちが知っている人（という安心感もあるし、逆に「あいつなんか」というバイアスもある）近い人。同じ住民だから、冷静な気持ちで自分事として前向きな話ができる
活動範囲	住んでいるエリアにかかわらず、どこへでも行くが、専門知識や経験値で得意分野がある	住んでいるエリアにかかわらず、どこへでも（移動民族・風の人）	人によって違う。大半が住んでいる範囲だが、幅広い範囲で活動する人もいる。	自分がすんでいるエリアで活躍（土着民・土の人）
報酬	報酬が必要で、それが食い扶持だが、Fだけで食べているのではなく、計画づくりなどの全体業務の中の「市民の意見をもらう」というワークショップ部分で、Fとして業務をするのみ	報酬が必要で、それが食い扶持	業務につき報酬はなし（時間外は超過勤務であって、報酬ではない）	経費をもらうことがあるかもだが、それは食い扶持ではない
スキル	何かしらの計画づくり等が本来業務なので、ファシリテーション等の勉強を全くしていない場合もある。他分野（都市計画や河川や環境等）の専門家である場合もある	すでにスキルを持っている（ので即戦力があるが、コスト高い）	会議の司会進行や説明する機会はたくさんあるが、もともとスキルがあるわけではない。なので、どう育成するか、どう成長してゆけるか？がポイント	もともとスキルがあるわけじゃないので、どう育成するか、どう成長してゆけるか？がポイント
かかるコスト	依頼されている全体のコストから考えると、F部分のみなので、Fそのもののコストは安いですが、そこだけのコスト計算はできない	およびするたびにコスト（謝金・交通費）がかかる	行政が育成するのであれば公費負担となるが、個人が自費で取得する場合もある。	いちど育成してしまえば、何度でも活躍してもらいやすい（育成コストはかかるが、運営コストは低い）
年齢	通常30-60代の働き盛りが多い	通常30-60代の働き盛りが多い	18歳から65歳まで在任期間だが、管理職になつたりすると関わりにくくなる	高校生から高齢者まで可能
自治意識	委託事業での展開なので、無い	プロにやってもらった感が出るかも	協働の意識が高まる。住民自治意識の醸成を図る	自分たちで自治している！という意識が高まる。町民Fを担うこと自体が、協働の推進になる。
全国レベルの知見	Fではない部分での専門知識が豊富かも？	いろんな土地にいらしているので、豊富	豊富ではないが、行政目線の地域にまつわる専門分野の事例の知見は深い	豊富ではないが、土地にまつわる知見が深い
人脈	Fではない部分での人脈は豊富かも？	全国各地の人脈に長けている	地域の人脈はいろいろ（職員により差）近年は町外から職員になる人が多いため、役場職員だからと言って、必ずしも地域のことや人を知っているわけではない	土地のじいちゃんから幼稚園児までつながっている
扱うのに適した内容	依頼されたもの、得意分野を扱う。よって、市民の意見をしっかり受け取らないと、金太郎飴のようななどこの地域でも同じような計画が出来る	土地の人がさばいたのであれば遺恨が残るような課題とか、扱いきれないハードなもの、あるいはキックオフ的なきっかけ	行政が策定する法定計画または自治体独自の計画策定の際の意見収集および反映。意見交換会の進行は難しいかも	日々、日常でおきる自治上の課題や、その土地の人たちがどうしてゆきたいか？といったテーマがよいのかな
頭数	業務の一環なので、新人だろうが全員やらされる	少数精鋭	自治体内の状況により様々。頭数はたくさんいるが、町民と接することのない部署もあるので、どう関心を持ってもらうかが鍵	登録した講座受講生などがいるので、みんなでわいわい
進め方	どんな意見が出たのかを、参加者に提示する必要性は無い。下手すると、アライづくりと言われてしまう	多様な意見があるのだと、参加者自身に気づきをもたらし、抜けと漏れが分かる	どんな意見が出たのかを参加者に提示して、計画に反映すると信頼される。逆に役場批判になると進行が困難	進め方を話し合っ、みんなで検討できる
合意形成とその後	主催者側が、あとから都合が良いように修正をする、意見を取り上げないなどの反則行為が、しばしば見られる。それをFが知っている場合もあるし、知らない場合もあるので、責任の所在がはっきりしない	基本的に参加者全員の合意が必要。主催側の合意形成を盛り込む場が無いと、会議に参加した市民のみの合意なので、後から修正されてしまう可能性あり。主催者側と一緒に合意形成が出来れば、修正は無い。	話し合いの結果をしっかりと反映することで住民から信頼を得ることができて、住民の自治を促進する。ただ、立場的に意見の交通整理が難しいため既得権者や声の大きい人の意見に流されがち。	課題解決型のF、難しい課題の合意形成のFになるには、経験値が必要かも？
意見の取り扱い	意見集約後の報告の際に、都合の良い意見だけを取り出していても、市民側には分からない	真摯に成らざるを得ない	真摯にしないと、地元で生きにくい？意見が出ても、実行性に乏しいものは取り上げにくい。だからといって切ってしまうと、批判のもとになる。	真摯にしないと、地元で生きにくい？
会議の組み立て	主催者の目的に応じてファシリテーターが計画全体からワークショップもすべて作るコンサルが多い。発注者のオーダーによって変更可能であるが、発注者も事業の組立について知らないことが多いし、委託されたコンサルも、意見集約に力を注ぎすぎることにはできない。その理由として、計画策定などの根拠となる事項の整理や他の関係機関への調査などの時間も重要なので（町民はWS参加者だけではない。個人の意見ではなく、関係機関の組織としての意見も重要である）、WSのみに時間を割けないということ。役割分担を知る発注者や委託者であれば、複合的な組立は可能である。	主催者とマメに打ち合わせしながら、計画全体もワークショップも組み立てていく。根拠となる事項の整理や、町民調査や、関係機関へのヒアリングからの意見整理などは、不得手か？	根拠となる事項の整理や町民調査、関係機関へのヒアリングからの意見整理を得意としている。正確な情報から地に足の着いた会議の組み立てが可能。事業の組み立てを理解してしまえば、まちをドンドン変えていく力を持っている職員が生まれる可能性があるが、絵に描いた餅にならないよう、実行力が求められる。それは、町民ファシリテーターよりシビアに求められるかもしれない。	主催者と打ち合わせるが、携わるのはワークショップのみ？町民内の意見の発散、意見集約までは得意とするが、合意形成が得意ではないように思う。責任がどこまであるのか？不明なので、怖さがあるのか？
意見収集他の組み立て	町の将来像に対して想いや責任が無いので、意見の発散や収集などに対して、エネルギーを割けない、割かない。計画づくりなどの場合は委託費が多く予算化されるので、業務なら委託する意欲がある。しかし町の個性や特性を知らないで金太郎飴のような計画策定になりがちで、さらに町民のまちづくり活動をサポートするための意見の発散や収集の場づくりについて、町の将来にとって大事なことに繋がっているという認識が低い。	外からの意見として、同じ活動家として、参考となる人や事例を紹介しやすい。意見発散も収集も、必ず町の次に繋がると知っているのが、力が入る。客観的な目と主体的な熱量が、程よいかも？	毎回似たような参加者ばかりでなく、幅広い年齢やジェンダーなど、多種多様な意見を聴けるような会議の組み立てが必要	町内の意見の発散や意見集約は、ファシリテーターでありながら、当事者としての町民の立場を持つので、大変に得意である。お互いが当事者であることから、相乗効果を生みやすい。とある町民個人が、町民ファシリを担うことで、話し合いの場で「うっかり視界が狭くなること」を、いつも「視界を広く持つ」ことを意識して、考え、行動することに繋がり、進行役以上の働きをすることが大変に多い。まちづくりに、これほどまでに有用だとは知らなかった！！
4つのF、それぞれの違いを知り、協力しあう				
それぞれいると、ほんといいい				
連携・協力できると良い。市民の意見を組み込むFの事業は、部分的に委託してもらうように、最初から事業を組み立てると、地元にとっても良い				
消防士と消防本部、消防団				